

令和4年度山口県（山口市）地域社会武道（柔道・剣道）指導者研修会
〔中学校武道必修化特化型〕

開催期間：令和4年5月18日（水）～19日（木）

会場：維新百年記念公園維新大晃アリーナ武道館、レクチャールーム

派遣講師：【柔道】高橋 進 七段 （公益財団法人全日本柔道連盟教育普及・マインド委員会委員長）

田中裕之 六段 （公益財団法人全日本柔道連盟普及振興部長）

【剣道】大城戸功 範士八段（愛媛県剣道連盟副会長）

佐藤 誠 教士八段（大阪府剣道道場連盟副会長）

参加者：【柔道】12名

【剣道】18名

研修内容：

【柔道】

1日目の午前中は、田中裕之講師による講義が行われた。田中講師は、学習指導要領内の「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」の要素に基づき、柔道の授業は、技術を身につけることだけではなく、柔道を通して思考力や判断力を育て、人間性を養う部分に本質があると説明した。そして、教員はその本質を理解して授業を行わなければならないと述べた。体力が低下し、他者への思いやりに欠ける現代の子供が、積極的に学ぼうとするような授業を作るために、本研修会を活かしてほしいと述べ、講義を締めくくった。

その後、高橋進講師による実技指導が行われた。基本的な動作・技（「受け身」「膝車」「体落とし」「大腰」「大外刈り」「寝技（けさ固め、横四方固め）」）の指導法について、日常の類似した動きから段階的に体に馴染ませる練習や、ゲーム形式の練習など、中学生への授業を想定した教え方を紹介した。

また、互いの動きをスマートフォンで撮影し、動画を見て改善点を話し合う、ICTを活用した授業方法についても実践した。

2日目は、田中講師が授業の流れについて、講義と実技指導を織り交ぜながら解説を行った。生徒間での技の教え合いや評価、簡易的な試合などのグループワークを参加者同士で体験した。田中講師は、グループワークを行うことにより、生徒が知識・技能をアウトプットする力が育成されると述べた。研修の後半は、授業でのワークシートの活用による生徒の評価法について講義を行った。



スライドを使って講義をする田中講師



二人組で寝技の補強運動

【剣道】

はじめに大城戸功講師が、授業における安全管理について、以下の3点を留意事項として挙げ、説明した。

- ①授業を実施する環境・・・素足で行うため、体育館の床面にある金属プレートなどのけがの要因は、あらかじめ補修する。
- ②用具の安全点検・・・用具はこまめに点検し、破損（小手の皮の破れ、竹刀のささくれ等）があった際は、都度修理する。
- ③生徒の身体面・・・準備体操を入念に実施する。特に剣道での足の回転運動がアキレス腱を痛めやすいため、生徒に注意喚起をする。

その後、参加者を剣道未経験者と有段者の2グループに分け、実技指導を行った。

未経験者グループの1日目は、午前中に大城戸講師が、竹刀の持ち方、すり足、素振りなど剣道の基本動作について解説をした。初めて竹刀を握る参加者に対しては、竹刀を上下に振る動作からはじめ、徐々に打突ができるよう練習した。午後の部は、基本練習（切り返し、面、小手、小手面）を行った。参加者は講師が持つ竹刀を打ち込むことで打突の感覚を体験した。

2日目の午前中は防具の着装方法と、防具をつけて参加者同士で基本技の練習が行われた。初めての着装に苦戦する参加者からの質問一つ一つに対して、講師から丁寧な解説がなされた。基本技の練習では、防具の動きにくさや感覚の違いを経験した。午後の部では、大城戸講師が教師役、参加者が生徒役となり、模擬授業を行った。

有段者のグループの1日目は、木刀による剣道基本技稽古法の指導について、佐藤誠講師が自身の指導経験を交えながら解説をした。佐藤講師は、礼法や動作の詳細な部分について理解が及んでいない有段者がいることを述べ、少年の指導にあたる者として、正しい知識を身につけて指導にあたって欲しいと参加者に呼びかけた。

2日目は、剣道初心者の生徒への指導方法について実技指導が行われた。佐藤講師は「初心者の生徒に初めから竹刀を持たせると、手足の動きが一致せず上達に繋がらない」と述べ、手刀での素振りや、すり足と手の動きを合わせる練習を参加者に実演しながら説明した。



防具をつけて面打ちを練習する未経験者グループ



木刀による剣道基本技稽古法を行う有段者グループ